

修学旅行事前学習



身近な存在でありながら意外と
知らない神社やお寺のこと

そんな疑問にお答えいたします

仏像の魅力



仏像ってなんだっら

仏像とは、もともとは

(**仏教を始めたお釈迦様**)

の姿のことです。

日本全国に様々な仏像がありますが、かつて都があった奈良、京都にはとりわけ沢山の仏像があります。

これは仏教伝来以降、時の権力者が争うように寺院を^{こんりゆう}建立したからであり、その結果技術が磨かれ、傑作が多数生まれたからです。

これまでに造られた仏像はたくさんあります。それこそ、人々の願いの数だけあります。そして一体一体名前があり、意味があります。しかも造られた時代によって痩せたり太ったりもしちゃうんです！

なんだか難しい仏像。

でも、調べて見ると意外と面白い仏像。

どうせ修学旅行で仏像いっぱい見るんだったら、ちゃんと知ってから見に行こう！！

仏像の役割

似ているようで ちがうんです



人間の社会には組織というものがあります。
仏像の世界も同じです。いくつかのグループ（種類）があって、それぞれの役割があります。そして仏像はそれが見た人にすぐわかるように、それぞれに決まった服装や髪形をしています。
これはどんな国でもどんな時代でも共通です。
細かいグループ分けは仏像の専門家に任せるとして、中学生の皆さんは、おおまかに4つのグループを知っておきましょう。

- 如来
- 菩薩
- 明王
- 天（天部）

この4つです。次のページからはこの4つの種類について学んでいきましょう。

仏像のひみつ

お釈迦様ってうぬぼれもの？

あなたって唯我独尊のうぬぼれものだね！

なんて言ったりします。唯我独尊って聞いたことがあります？

これ、もともとは【 **天上天下唯我独尊** 】という言葉で、お釈迦さまが生まれてすぐに発したという言葉です。おぎゃーと生まれた釈迦は、七歩歩いて空と地面を指さしこの言葉を発したと言います。意味は

【 **この世界で私より優れたものはいない** 】という意味ではありません。この言葉の本当の意味は【 **天上天下にただ一人、誰とも代わることのできない人間として、この命のままに尊い** 】という意味です。誰かと比べるのではなく、ありのままで尊いという言葉です。

・かたい仏像 と やわらかい仏像

仏像はいろんな素材で造られています。石や金属や木・・・

これらを大きく分けると、『かたいもの』と『柔らかいもの』に分ける事ができます。

かたい材質を削って造った仏像です。一番よく見るのはお地藏様。石できていますね。

あとは、木造。これには木の使い方によって3つのタイプがあります。

- ・一木作り・・・一本の丸太を削って造る手法です。
- ・寄木造・・・2本以上の材木を積み木のように組み合わせた手法です。
- ・割萩作り・・・一本の丸太を縦に真っ二つにして造る手法です。

やわらかい材質で造った仏像です。溶かした鉄や土、ウルシなどで造られたものです。

仏像といわれたらこちらを想像する人が多いのではないのでしょうか。

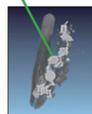
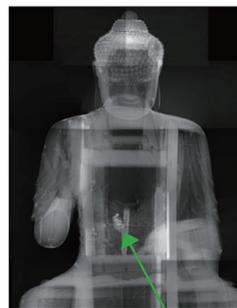
- ・金剛仏・・・ロウと土で形作り、できあがった型に銅を流し込む手法です。
- ・塑像・・・粘土で作る手法です。もろいけれど、簡単に造ることができる手法です。
- ・ウルシ造り・・・粘土と同じように造ることが出来ますが、乾燥するととても強固になる手法です。

・仏像の魂

【仏像作って魂入れず】という言葉があります。

仏像には実は心臓とも魂ともいうべき部分があるのです。

それはX線画像を見て初めてわかるのですが、胴体の部分に空洞があり、そこに巻物や水晶の玉など、様々な宝が入っています。



悟りを開いた者 如来

(によらい) 仏のうち、最高位の存在です。

如来の「如」は真理という意味で、真理を発見して覚り（さとり）をひらいた釈迦が、その真理の世界から来た「来」という意味で「如来」と呼ばれています。如来は当初は釈迦如来だけでしたが、1世紀頃の^{たいじょうぶつきまう}大乘仏教の成立により、釈迦如来とは別の色々な如来を主人公にしたお話が作られます。（このお話が、いわゆる“お経”です）

そして、その主人公を表した阿弥陀如来・薬師如来など多様な仏像が造られるようになりました。

さらに7世紀にインドで密教が起ると（**大日如来**）という特別な如来（一番偉い!!）が造られるようになりました。

釈迦が6年間の苦行に耐え、覚り（さとり）を開いた瞬間、伸び放題だった頭髮は丸まり、頭の上には大きなこぶが盛り上がり、おでこの真ん中には白い毛が伸びてそれも丸まり、上半身に一枚まとった布は、金色に輝きだしたといいます。まさにその瞬間を表したものがこの“如来”なのですね。



【如来の特徴】

①如来の体には32の特徴があるぞ

- ・歯が40本ある
- ・手には水かきがある
- ・立ったまま膝に届くくらい手が長い
- ・舌が顔よりも大きい
- など

他にもあるから自分で探してみよう



・釈迦如来・・・両の掌を開いた姿。

右手で不安を取り除き、左手で願いを叶える。

・（**薬師如来**）・・・東の浄瑠璃世界の教主。

左手に壺を持ち、この世の病と苦しみを取り除く。

・阿弥陀如来・・・西の極楽浄土の教主。

開いた掌は親指と人指し指をつなげており、人々を極楽浄土へ導く。

・（**大日如来**）・・・全ての仏を統べる存在。真理そのもの。

※如来の三尊形式・・・如来は一体で安置されるよりも、左右に菩薩を置く場合が多い。

例) 釈迦には 普賢・文殊菩薩 薬師には 日光・月光菩薩 阿弥陀には 観音・誠志菩薩

悟りを開いた者 如来

- ・如来とはもともと、実在した人物をモデルにしたものです。では実在した人物って？
紀元前5世紀、インドの『釈迦族』という貴族の王子に、ゴータマ・シッダールタという人がいました。皆さんには（ **ブッダ** ）のほうが馴染み深いでしょうか。この人はまだ若いころ、人生の問題に深く悩んで、普通の生活を捨てて修行を始めました。（この修行を始めたころのブッダを表したものが『 **菩薩** 』です。）
大変厳しい修行の末、やっと覚りをひらいて、ブッダ（釈迦）は（ **如来** ）になりました。釈迦族出身の如来だから（ **釈迦如来** ）。これが最初の如来です。
- ・仏教の教えが広まると、ブッダのお話は文章にして広く読まれるようになってきます。これが（ **お経** ）です。
- ・さらに仏教が広まると、ブッダとしての釈迦如来以外が主人公の話も生み出されるようになります。そういったお話の主人公として、阿弥陀如来や薬師如来が考えだされました。
- ・さて、ブッダが覚りをひらいた時のことです。長い修行のあいだにぼうぼうに伸びた髪の毛は一本一本がくるくると丸まり、頭の上には大きなこぶが盛り上がりました。おでこの真ん中には白い毛があり、それも丸まりました。
そしてその時に着ていた服（といっても、大きな布とスカートのようなものだけですが）は金色に輝きだしました。この時の釈迦の姿を現したものが（ **如来** ）です。

五つの指の印

- ・仏像の手は様々な印（いん）を結んでおり、それらには一つひとつ意味があります。ここでは代表的な5つを紹介します。
- ①釈迦が人々に話をしているときのポーズです。
- ②静かに瞑想している時のポーズです。今でも座禅を組む時などはこの手の形を作りますね。
- ③釈迦が覚りを完成させようとする時、多くの悪魔が表れて邪魔をしようとしてきました。その悪魔を追い払うため地面を指さした時の手の形をあらわしています。
- ④最もよく見る形のの一つです。『 **願いを叶えましょう** 』という意味があります。
- ⑤これもよく見る形ですね。『 **怖がらなくてもいいんだよ** 』という意味があります。



悟りを求める修行者 菩薩

(ぼさつ) 如来になることを目標に修行している仏が菩薩であるとされています。

菩薩とは「菩提薩た(ぼだいさつた)」の略で、悟り(菩提)を求めて、生きる者(薩た)という意味です。菩薩は如来の命令に応じて、仏の慈悲の行いを実践することで衆生を救います。

古代インドの釈迦族の王子であった出家する前の釈迦をモデルにしているので、多くの菩薩は古代インドの王子のような衣装をまとい、頭には宝冠を被り、体には装飾品を身につけています。表情は女性的で微笑みをたたえたやさしい像が多いのが特徴です。



【観音菩薩の三十三変化】

- ①観音菩薩は“変化菩薩”とも呼ばれ、世を救済する為に、様々な姿に変わって現世に現れるとされ、これを観音の普門示現(ふもんじげん)といいます。
- ②『六道輪廻(ろくどうりんね：あらゆる生命は6種の世界に生まれ変わりを繰り返すとする)』に対応した姿で、人々を救います。

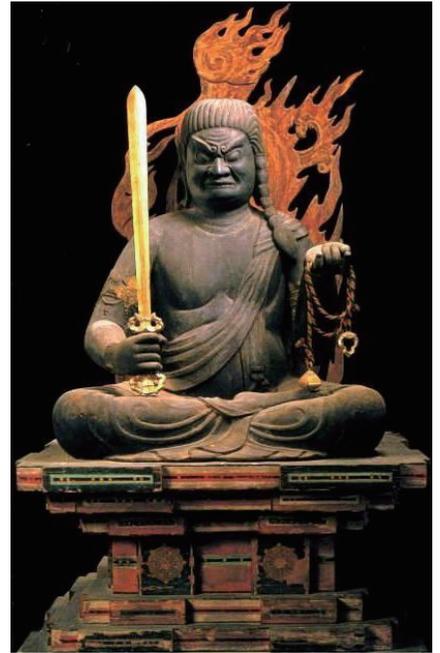
(地獄道)	……聖観音	(修羅道)	……十一面観音
(餓鬼道)	……千手観音	(人道)	……准胝観音
(畜生道)	……馬頭観音	(天道)	……如意輪観音

- ・観音菩薩・・・両の掌を開いた姿。
右手で不安を取り除き、左手で願いを叶える。
- ・弥勒菩薩・・・東の浄瑠璃世界の教主。
左手に壺を持ち、この世の病と苦しみを取り除く。
- ・普賢菩薩・・・西の極楽浄土の教主。
開いた掌は親指と人指し指をつなげており、人々を極楽浄土へ導く。
- ・地藏菩薩・・・いわゆる“お地蔵さん”。閻魔大王の化身。
現世や地獄で、人々の代わりに苦しみを引き受けてくれる。

邪悪を打ち砕く使者 明王

(みょうおう) 明王は、大日如来を中心とする密教の教えにより、大日如来の化身として仏教の教えに従わない者を、調教、救済する仏とされています。

明王の「明」は、神秘的な力を持つ言葉や呪文(真言)を意味し、その力の最も絶大なるものを明王と言います。煩惱を断ち切れない人々を強い意志を持って救済するため、髪を逆立て忿怒の形相をしており、背中には煩惱を焼き尽くす火炎を背負っている像も多く、武器を持つなど勇ましい姿をしています。



【大日如来の子分】

①如来の中で一番偉いのが、大日如来でしたね。そして如来になる為の修行中なのが菩薩。

では明王は？

明王は言わば、大日如来の子分です。また、明王にも子分がおり“童子”といいます。童子は、明王よりも下の、【天】というグループに属します。

②明王はみんな怒った顔をしていますね。これは、如来や菩薩のように優しい顔をしていても言う事を聞かない民衆を導くために厳しい顔をしているのです。

③最も有名な明王は（ 不動明王 ）ですね。

この不動明王を祀っているお寺は『〇〇不動』という呼び名で有名です。

次に有名なのは（ 愛染明王 ）でしょう。

戦国武将直江兼次の兜印でも有名です。※諸説あり

・不動明王・・・両の掌を開いた姿。

右手で不安を取り除き、左手で願いを叶える。

・愛染明王・・・東の浄瑠璃世界の教主。

左手に壺を持ち、この世の病と苦しみを取り除く。

・軍荼利明王・・・西の極楽浄土の教主。

開いた掌は親指と人指し指をつなげており、人々を極楽浄土へ導く。

・孔雀明王・・・孔雀の背中に乗った姿の明王。

明王には珍しく、優しい顔つきをしている。

仏教を守護する者 天部

(てん) 古代インドのパラモン教やヒンズー教などの神話に登場する様々な神々が、後発の仏教に取り込まれて、仏教の守護神とされたのが天です。

天とは「超人的な力を持った神」を意味しており、明王が人々を救済することが役割であるのに対し、天は仏法を守護すること自体を役割としています。

天の中には、毘沙門天のように勇ましい武人の姿の像や、弁財天のように貴族の女性の姿の像、風神雷神のように自然現象を神格化した像など様々です。



【鳥?牛?魚?我らは天部】

①天とは、もともと仏教ができる前からインドで信じられてきたたくさんの神様が仏教に取り入れられたものです。

いろいろな神様の寄せ集めですから、姿や役割もさまざまです。男女の区別がはっきりしているものから、動物の姿をしたものもあります。

②男の天の多くは仏教を守るガードマンの姿をしています。中でも有名なのは【 四天王 】であり、お堂の東西南北の四隅に立ち、お堂を守っています。

・二十八部衆・・・千手観音専属のガードマン。

門前にいる仁王像もそのひとりです。

(阿吽) 像のことですね。

・十二神将・・・薬師如来専属のガードマン。

12の時、12の方角を守護し、十二支と組み合わせた姿をしている。

・八大童子・・・不動明王の子分。

八人の子どもが、それぞれ不動明王の性格を表しています。

・四天王・・・仏教そのものを守るガードマン。

お寺の四隅、東西南北に立ち、中心にいる如来や菩薩を守ります。

北一多聞天 南一増長天 東一持国天 西一広目天

※毘沙門天・・・有名な名前ですが、実は北を守る多聞天のことです。

あまりに有名なので、一体だけで話に登場する事も多く、その時は毘沙門天という名前で呼ばれます。足元に鬼(邪鬼)を踏みつけた姿が有名ですね。

・これだけはおさえておきたい拾巻撰

清水寺

広隆寺

神護寺

六波羅蜜寺

教王護国寺（東寺）

蓮華王院（三十三間堂）

浄瑠璃寺（九体寺）

三千院

泉涌寺

清涼寺（嵯峨釈迦堂）

千手観音像【国宝】 平安時代

弥勒菩薩半跏思惟像

薬師如来立像

空也上人立像

不動明王像

千手観音坐像【国宝】 鎌倉時代

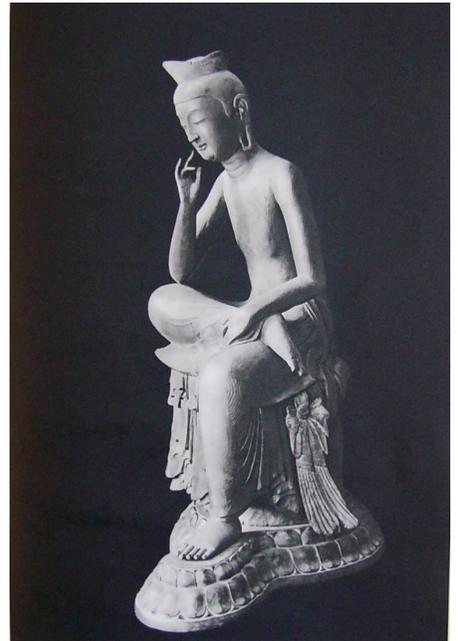
千体千手観音立像【重文】 平安～鎌倉時代

九体阿弥陀如来像【国宝】 平安時代

阿弥陀三尊像【国宝】 平安時代

楊貴妃観音像【重文】 鎌倉時代

釈迦如来立像【国宝】 平安時代



壹 鳥居のはしを、一礼してくぐる

神社の入り口には、必ず鳥居があります。
できれば、神社の一番外側にある「一の鳥居」から順に鳥居をくぐって、参道へと入りましょう。
鳥居をくぐる際には、軽く一礼します。これを「一揖（いちゆう）」と言います。
参道を進むときは参道の中央を進んではいけません。参道の中央は「正中」といって、神様が通る道なので、我々が通るところではないのです。
鳥居のはしを通るようにしましょう。
ちなみに、「一の鳥居」から内側にある鳥居は、順に「二の鳥居」「三の鳥居」といいます。



てみずや 貳 手水舎で身を清める

参拝をする前に、参道の脇にある手水舎（てみずや）という場所で、身を清めます。
手水舎には、水がためてあり、柄杓（ひしゃく）が用意されています。そこでの具体的な作法は、こうです。

- 一、右手で柄杓を取って、水を汲み、それをかけて左手を清めます。
- 二、次に、左手に柄杓を持ちかえて、右手を清めます。
- 三、再びひしゃくを右手に持ちかえて、左の手のひらに水を受け、その水を口に入れてすすぎます。
- 四、すすぎ終わったら、水をもう一度左手にかけて清めます。
- 五、使った柄杓を立てて、柄の部分に水を伝わらせるようにして清め、柄杓を元の位置に戻します。



この時、直接柄杓に口をつけてはいけません。多くの人が使うものですから当然ですね。

参 二礼 二拍手 一礼

まず、一揖（軽く一礼）します。

次に、鈴があれば力強く鳴らしましょう。神様に自分が来たことをこれで知らせるわけです。

今度は、お賽銭です。お賽銭を投げつけるようなことがあってはいけません。静かに入れましょう。

そして、「二礼二拍手一礼（二拝二拍手一拝）」を行います。

「二礼」 神前に向かって、二回深くおじぎをします。背中を平らにして、腰を90度折ります。

「二拍手」 両手をのばして手のひらを合わせてから、右手を少し後ろへ下げます。（左手の親指の付け根の膨らんだ部分と右手の手のひらのへこんだ部分が合わさるぐらいのイメージで）肩幅ほどに両手を開いて、柏手を2回打ちます。再び、両手をあわせ、揃えて祈念をこめてから手を下ろします。

「一礼」 再び深くおじぎをします。

丁寧な作法では「一揖二礼二拍手一礼一揖」となっています。（上記に加え最初と最後に一回ずつ浅くおじぎをします）

ちなみに、この参拝の仕方は一般的なもので、神社によっては作法が異なる場合があります（出雲大社など）。

また、拍手をうつのは神様を呼ぶためではなく、自分が素手であること、何の下心もないことを神様に証明するためのものです。

一般の参拝者は鳥居を出てから一礼をし、帰ります。



これは作法とはちょっと異なりますが、お御籤（おみくじ）を引いた際に、結びつけるのは厄を祓うためです。よいお御籤を引いたときは、結びつける必要はまったくありません。

また、境内の木の枝に結びつけると、木をいためますので、やめましょう。通常はおみくじを結ぶための設備があるはずですので、そこへ結びましょう。

※伏見稲荷大社のおみくじは、なんと吉凶十七種もあるんですよ！

「大大吉→大吉→凶後大吉→凶後吉→末大吉→末吉→向大吉→吉→中吉→小吉→小凶後吉→後吉→吉凶未分末大吉→吉凶不分末吉→吉凶相半→吉凶相交末吉→吉凶相央」

調べてこよう

修学旅行で訪れたお寺には、どんな仏像がありましたか？

お寺の名前

仏像の名前

仏像のランク

仏像の役割

【例】

田中護国寺

超絶田中如来

如来

なんかすごい如来。全部守ってくれる。

お寺の中で、住職の話し相手になるのが仕事。

右手にメガネを持っている。学問の神。

田中先生の個人的な京都お勧め情報

【なんだかんだ一日楽しめます】

京都市右京区 うずまさ 映画村

【京都弁を聞いたらここ！】

京都タワー

【ここがあつ有名な…！？】

晴明神社

【〇〇の丸焼き】

伏見稲荷大社

【おみやげは全部ここで買えます】

京都駅

【あなたの為の仏様，1001分の1 ！？】

三十三間堂

【真っ暗な世界で生まれ変わります】

随求堂

【京都という名のパワースポット】

京都 五社巡り



故きを温ね新しきを知る

寺院名 [] 宗派 []

開創年 年 [] 時代 []

お寺を開いた人 []

かかわりの深い人物 []

ご本尊 []

種類 ▶ 如来 菩薩 明王 天部

主な素材 ▶ 木 石 金銅

お寺の歴史	見どころ
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

put a ticket or photo



故きを温ね新しきを知る

寺院名	[]	宗派	[]
開創年		年	[時代]		
お寺を開いた人	[]				
かかわりの深い人物	[]				

ご本尊	[]	
種類 ▶	<input type="checkbox"/> 如来	<input type="checkbox"/> 菩薩	<input type="checkbox"/> 明王	<input type="checkbox"/> 天部
主な素材 ▶	<input type="checkbox"/> 木	<input type="checkbox"/> 石	<input type="checkbox"/> 金銅	

お寺の歴史	見どころ
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

put a ticket or photo

故きを温ね新しきを知る

寺院名 [] 宗派 []

開創年 年 [] 時代]

お寺を開いた人 []

かかわりの深い人物 []

ご本尊 []

種類 ▶ 如来 菩薩 明王 天部

主な素材 ▶ 木 石 金銅

お寺の歴史

見どころ

put a ticket or photo

故きを温ね新しきを知る

寺院名	[]	宗派	[]
開創年		年	[時代]		
お寺を開いた人	[]				
かかわりの深い人物	[]				

ご本尊	[]	
種類 ▶	<input type="checkbox"/> 如来	<input type="checkbox"/> 菩薩	<input type="checkbox"/> 明王	<input type="checkbox"/> 天部
主な素材 ▶	<input type="checkbox"/> 木	<input type="checkbox"/> 石	<input type="checkbox"/> 金銅	

お寺の歴史	見どころ
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----

put a ticket or photo



2年 組 番

氏名